映像で心豊かに——

丹波篠山 映像祭

入場無料

2月2日(日) 10:00 ~ 15:30

四季の森生涯学習センター

人が好き まちが好き 街かど Report リポート

第36回 丹波篠山映像大賞最終ノミネート上映作品 （敬称略）

私のパンの焼ける音

蔵岡 登志美（東京都杉並区）

耳が不自由で臆病だった少女が、
両足が不自由な男性に出会った時…。

千年の子守唄

大永 恵子（兵庫県宝塚市）

深い山奥の村で過ごす老女は、
くすの木の根元で何を考え生きるのか。

まつぼっくりと牛丼

中野 美子（神奈川県藤沢市）

「靴磨き」を生業にしている女性のそばには、
いつも松ぼっくりが…。

虹いろの森

武田 明香里（東京都西東京市）

広い森の中で、緑の少女は自分と違う赤い少女と出会い、
その違いが不思議でたまらない。

84歳のビデオグラファー

静岡大成高等学校放送部（静岡県静岡市）

自ら撮影してきた映像を東日本大震災で全て失ったが、
彼は何を想い今も撮り続けるのか。

アルビノももかさんの希望の歌

佐藤 香奈（神奈川県横浜市）

「アルビノ」という病気を抱えた少女は、
自分の居場所を見つけ強く生きていく。

タイムスケジュール

- 10:00　映像体験 / VRやプラネタリウム、映像ライブラリー（懐かしの映像など）、丹波焼ガラメン体験、篠山産業高校ワークショップ　他
- 11:00　フードコーナー / しし汁・飲食コーナー
- 12:30　客席開場
- 13:00　第36回　丹波篠山映像大賞
- 13:15　映像大賞ノミネート作品上映
- 14:15　Enjoy丹波篠山♪ ショートムービーアワード作品上映、会場投票
- 15:00　結果発表、表彰式 お楽しみ抽選会

※時間や内容は変更する場合があります。

こんにちは、実行委員です！

映像の力で世界に魅力発信！

本多紀元さん

もはや映像は、情報力の主となってきたようにも思えます。この時代や地域の伝統などを記録し、次世代につなげ、地域の魅力発信に活用しませんか？

映像を体感「VR体験」

西本和史さん

VRの特徴は、「目の前にある現実とは違う仮想空間を、まるで現実かのように体験できる」こと。ゲーム感覚で、子どもにも大人気です！

好評だった催しが復活！

箕浦祐太さん

お楽しみ抽選会、しし汁・飲食コーナーが復活します！ぜひ、皆さんでお誘い合わせの上お越しください。たくさんのご来場をお待ちしています♪

先着200人に篠山産業高校生手作りの来場者プレゼント!!

どんなプレゼントかお楽しみに♪

参考書を見たり、みんなで意見を出し合ったりしながら、皆さんに喜んでもらえるものをめざし、3Dプリンターを使って頑張って作っています。

映像祭ではワークショップも行うので、ぜひお越しください！

全国に誇る丹波篠山文化

映像祭実行委員もやってます！

畑弘恵さん

昭和に生まれ、平成になり令和になり、時代は加速的に流れ流されていくものだと日々感じます。しかし、丹波篠山市に残る映像には、伝統文化を支える不変的な人々の心がたくさん記録されています。映像祭はもとより、受け継がれてきた丹波篠山の映像文化はとても意義のあるものだと感じます。

丹波篠山映像大賞で発信しているテーマは「生きる」。

平成とともに始まった「ビデオ大賞」は、令和２年に名称を「丹波篠山映像大賞」に変更し、今回第36回を迎えます。

全国規模のアマチュアビデオコンテストである丹波篠山映像大賞。作品を通して、人々の「心」が懸命に生きる姿に触れたとき、共感・共鳴し、生きる勇気やエネルギーをもらいます。

今回の映像祭では、映像に触れる企画や飲食コーナーなど、おもてなしを復活し、１日を通して多種多様な企画が盛りだくさんです！

最新情報はこちらから！

問い合わせ　視聴覚ライブラリー☎590-1301

今年の映像祭はひと味違う！

丹波篠山映像祭
実行委員長
岩田瑞希さん

丹波篠山映像祭は、「映像を通して、日常の中にある豊かさに気づき、生きる力・人のつながり・心の豊かさを育む」ことをめざしています。

今回の映像祭では、映像作品だけではなく、VR体験やプラネタリウムなど映像に関わるお楽しみコーナーも企画しました。また、来場された皆さんにゆったり過ごしてもらえるよう、しし汁の販売や飲食ブースのほか、篠山産業高校生によるワークショップなどもあります。

丹波篠山映像大賞では、全国から寄せられた63作品の中からノミネートされた6作品、昨年から始まった「Enjoy 丹波篠山♪ショートムービーアワード」では、「丹波篠山の魅力を世界に発信する映像」7作品を上映し、結果を発表します。

どの作品が選ばれるのか…皆さんと一緒に楽しめるのを心から楽しみにしています！

映像は芸術文化遺産

丹波篠山映像大賞
審査委員長
西垣吉春さん

皆さんの日常の積み重ねを映像で表現するのがドキュメンタリーであり、未来に価値を深めていきます。

丹波篠山映像大賞の作品は、アマチュア目線で、プロの目が届かない身の回りのこと、自然の移ろい、人生観など、作者の目線で感じた思いが伝わるところが魅力です。また、36回も継続してきた映像大賞は、努力を重ねた皆さんの魂の賜り物だと感じています。

一生懸命作り上げた作品は必ず感動を呼ぶと信じています。心に残る映像は、芸術文化として、未来に伝える遺産として、大きな価値があります。ぜひ、作品作りを通して、モノの見方や広がりを感じてください。

KEYWORD 球